

世界銀行東京事務所ニュースレター

2022年（令和4年）6月号



WorldBankTokyo



@worldbanktokyo

G7 開発大臣会合（5/18-19）、財務大臣・中央銀行総裁会議（5/20）

マルパス総裁は、ドイツで開催された G7 開発大臣会合（ベルリン）と財務大臣・中央銀行総裁会議（ボン郊外ペータースベルク）に参加し、ウクライナ支援や食糧・エネルギー価格高騰への対応、パンデミックへの備えの強化、債務透明性の向上、気候変動への取り組みの重要性などを訴えました。



MIGA（ミガ：多数国間投資保証機関）俣野長官の来日（5/9-13）

MIGA 俣野長官は、来日の機会を捉え、世界銀行国会議員連盟（会長：松本剛明先生）との意見交換（5/12）に臨みました。会合では、事務局長を務める小田原潔先生による司会の下、開発途上国が直面する様々な課題や、急速に変化する国際情勢の下における MIGA の役割などについて、活発な議論が交わされました。



TDLC・防災ハブ担当局長（サメ・ワーバ）の来日（5/16-20）

持続可能な開発担当のユルゲン・フォーグレ副総裁の下で TDLC・防災ハブを担当するサメ・ワーバ局長は、マイトレイ・ダス担当マネージャーを伴い、来日しました。同局長は、ワシントンで開催された春の会合中の意見交換に続き、日本政府

（内閣官房・外務省・国土交通省）、地方自治体（福岡市・北九州市・仙台市）、JICA 九州事務所（吉成所長）、東北大学災害科学国際研究所（今村教授）、政策研究大学院大学（GRIPS：大野教授）などを訪問し、防災・質高インフラなどの分野における協力について議論しました。また、JICA で世界銀行など国際開発金融機関（MDBs）との協調を担当する武藤上級審議役との意見交換にも臨みました。



TDLC の動き：高齢化に備えた包摂的なまちづくり（5/30）

TDLC（東京開発ラーニングセンター）では、新レポート（Silver Hues：Building Age-ready cities）刊行の機を捉え、高齢化が進む中での都市経営の在り方を議論するため、神奈川県（黒岩知事）、福岡市（荒瀬副市長）、国立社会保障・人口問題研究所（林副所長、元セネガル保健大臣顧問）をお招きし、セミナーを開催しました。多くの

国で都市化と高齢化が同時進行する中、インフラ設計の工夫や地域コミュニティの活性化を通じた健康寿命増進の可能性などについて、掘り下げた議論が行われました。



人道援助コンGRESS東京・アフガニスタンに関するセッション（5/20）

世界銀行東京事務所は、赤十字国際委員会（ICRC）・国境なき医師団（MSF）共催の「人道コンGRESS東京2022」のアフガニスタン・セッション（モデレータ：上智大学・東大作教授）に参加しました。会合では、ICRC・MSFの現地駐在員とオンライン接続し、昨年8月以来の危機的状況について報告を受けつつ、IDA20増資の重点事項の一つでもある人道支援と開発援助のネクサス（連携）の強化や、政情不安定な国（FCV: fragility, conflict, and violence）への国際社会としての関与の在り方などについて、活発な議論が行われました。



西尾副総裁：キャリア構築における10のアドバイス（“西尾の十戒”）

世界銀行のホームページに、「西尾副総裁の十戒：キャリア構築における10のアドバイス」が掲載されました。当初、世界銀行内部の日本人職員を対象に紹介しておりましたが、反響が大きかったことを踏まえ、今回、広くお知らせすることとなった次第です。右のQRコードからリンクを開くと、詳細をご確認頂けます。



1：勉強する、2：成果物を出す、3：本拠地を見つける、4：いい仕事をする、5：出張し駐在する、6：自分でハードルを上げていく、7：自分が何者かアピールする、8：人間関係を大切に作る、9：reputationを築く、10：チャンスに賭ける

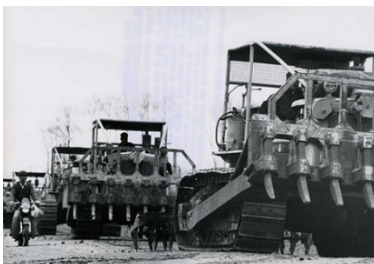
東京事務所職員紹介

俵渉子：東京開発ラーニングセンター（TDLC）業務担当官

2019年入行。「都市開発実務者向け対話型研修（テクニカルディープダイブ：TDDs）」を含む知識共有活動やパートナーシップ構築の立案・実施に従事。入行前は、国際開発コンサルタント会社のプロジェクトマネージャーとして、大規模インフラ事業の予算・契約、人材管理を担当し、インド・フィリピン等のインフラや造船案件の入札や監督業務などに従事。また、SaaS企業で新規営業コンサルタントとして日本と韓国のPR・マーケティング担当者に対するメディアモニタリング・ブランドモニタリングのソリューション提供を担当。ノースウェスタン大学で政治学学士号、ジョンズホプキンス大学高等国際関係大学院（SAIS）で国際関係修士号を取得。



世銀対日借款：プロジェクトの紹介（北海道・青森における開墾事業）



1956（昭和31）年、食糧不足と輸入依存回避のため、北海道の「根釧パイロットファーム」、「篠津泥炭地開発」、青森県の「上北パイロットファーム」の開墾事業に、農地開発機械公団経由で、世銀借款430万ドルが供与されました。貸出資金は、輸入機械の購入等に充てられ、近代的方法による開墾が試されました。当時の日本では大型機械を導入した農業はほとんど行われておらず、輸入機械による開墾・農地開発は画期的でした。